

基調講演

動物由来感染症のワンヘルス・アプローチについて

獣医師会から見た連携の取り組み状況

医師会との連携強化推進検討委員会 副委員長
公益社団法人 横浜市獣医師会 会長

井上 亮一



One World One Health



日本医師会

Japan Medical Association



いのちみつめる。いのち育む。
公益社団法人 日本獣医師会



Yokohama Medical Association

横浜市医師会



社団法人

横浜市獣医師会



One World One Health

獣医療と医療関係者の中で、マンハッタン原則に基づいた理念
人と動物の健康、環境の健全性を増進する協力関係の構築推進

One World One Health

2012年10月

世界獣医師会と世界医師会の協力体制強化の覚え書

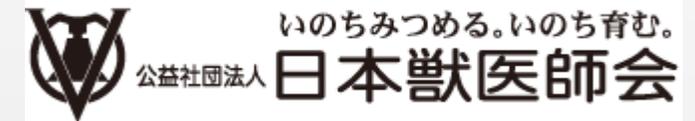
2013年11月

日本医師会と日本獣医師会との間で協定書

日本全国の地域医師会と地方獣医師会に拡大



公益社団法人 日本医師会と 公益社団法人 日本獣医師会の学術協定



2013年11月20日

(公社) 日本医師会と (公社) 日本獣医師会の学術協定調印式



一般社団法人 横浜市医師会と 公益社団法人 横浜市獣医師会の学術協定

2014年6月・7月

(一社) 横浜市医師会と学術協定書締結に向けての会議

2014年8月

(公社) 横浜市獣医師会理事会にて学術協定書を承認

2014年10月

(一社) 横浜市医師会理事会にて学術協定書を承認



一般社団法人 横浜市医師会と 公益社団法人 横浜市獣医師会との学術協定



2014年12月4日

(一社) 横浜市医師会と (公社) 横浜市獣医師会学術協定書締結

※全国で17番目となる締結



福岡宣言

2016年11月10日-11日

世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会
福岡県において第2回“One Health”に関する国際会議



福岡宣言



平成28年11月11日福岡県北九州市において調印。
写真左から、藤内勇夫 日本獣医師会会長、ジョンソン・チャン 世界
獣医師会次期会長、ザビエル・ドゥー 世界医師会元会長、横倉義武
日本医師会会長。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、強力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層連携・強化を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため強力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、“One Health”の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会を構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策 I

連携学術シンポジウム



第1回
連携シンポジウム
2014年10月28日
日比谷公会堂

両会会員向けの学術情報の発信

人と動物の共通感染症の予防対策の推進

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策Ⅱ

食の安全対策の推進

医療及び獣医療上共通に抱える課題
(薬剤耐性)への対応

災害時の同行避難の円滑な推進

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

連携学術シンポジウム

人と動物の共通感染症の予防対策の推進

2015年9月13日

平成27年度 関東・東京合同地区獣医師大会 市民公開講座

「動物由来感染症について」

公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター

感染制御部 部長 築地 淳先生

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

連携学術シンポジウム

人と動物の共通感染症の予防対策の推進

2019年3月17日

(一社) 横浜市医師会・(公社) 横浜市獣医師会共同企画

「獣医師が伝える～動物の飼育方法と疾患～」

なないろ動物病院 院長 土居祐子先生 (横浜市獣医師会会員)

東京大学名誉教授

佐々木 伸雄先生

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

2016年12月12日 (ワンニャン・ワンニャン)

横浜市旭区医師会 災害時医療講習会

「いざという時のための平常時からの心得」

横浜市旭区役所福祉保健課

横浜市医師会災害担当

横浜市歯科医師会災害対策担当

旭区薬剤師会会長

旭区獣医師会会長

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

横浜市旭区役所福祉保健課

大震災発生時に、あらかじめ登録された医師、薬剤師、市職員らと共に、横浜市防災計画に基づく「医療救護隊」として活動する看護職のことで、区内の避難所等で主に軽傷者に対する応急医療を行います。

Yナース 募集案内
(横浜市災害支援ナース)
Yokohama disaster assistance Nurse
災害時、あなたの力を貸してください。
横浜市では、災害時の医療救護活動を支援していただける看護職を募集し、登録をしています。

Yナースとは？
大震災発生時に、あらかじめ登録された医師、薬剤師、市職員らと共に、横浜市防災計画に基づく「**医療救護隊**」として活動する看護職のことで、活動内容としては、区内の避難所等で主に軽傷者に対する応急医療を行います。
*活動内容は区毎に異なります。詳しくは本パンフレット及び各区担当へお問合せください。

登録資格 横浜市に在住または在勤の保健師・助産師・看護師・准看護師の有資格者で、横浜市が被災した際に区内の地域防災拠点(指定された小・中学校)等にて支援活動ができる方。(ただし、病院勤務等で、災害時、職業に参画することになっている方は原則除く)	登録方法 ●中面の登録申込票に必要事項をご記入のうえ、登録を希望する区福祉保健センター福祉保健課(裏面参照)へ郵送もしくはご持参ください。 ●申込票受付後、Yナース登録証をお返しします。(郵送による申込の場合は後日郵葉にてお返りします)	Yナース登録証 見本 災害時、あなたの力を貸してください。
--	---	---

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

横浜市医師会災害対策担当

医師からのお願い

- お薬手帳を非常持ち出し袋へ入れておく
- 1週間分の普段の薬を予備に準備
- 主治医に質問しておくこと
 - ・(この中で)特に大事な薬は何か
 - ・食事抜きの際の薬はどうなるか
 - ・今現在何の治療をしているか

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

横浜市歯科医師会災害対策担当

災害時の口腔ケアの必要性

被災者の肺炎「誤嚥性肺炎を予防する」

- ・災害時には高齢者の肺炎特に**プラークの誤嚥**による「誤嚥性肺炎」が増加する

水が少ないときの歯みがき

- ・災害時における口腔ケアの必要性

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

横浜市旭区薬剤師会

被災時医薬品の備蓄・管理

・横浜市旭区内の6薬局が災害時に使用する医薬品を使用期限を切らさないように循環させながら備蓄をしている

お薬手帳の重要性

・服用歴・アレルギー歴・副作用歴

医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

横浜市獣医師会の取り組み

災害時の同行避難の円滑な推進

横浜市旭区獣医師会

同行避難の正しい理解

避難所における動物の飼育管理



万一の災害時、大切な命と社会を守りたい
「ペット同行避難」
を知っていますか？



「ペット同行
避難」って？

災害時にペットを伴って避難し、人とペットの安全を図るのがペット同行避難です。



なぜ「ペット
同行避難」？

放浪動物が人にケガをさせるなどの被害を防ぶ。感染症や人混み等による汚染から環境を保全するのが目的です。



避難所での
同居は？

人と同じ場所やペットが暮らすのでは無く、決められたペット専用スペースで飼い主同士が管理します。



普段からの
備えは？

耐震用品、しつけと訓練器具、不特定動物手帳、ワクチン接種履歴やマイクロチップ等所有者情報がわかるように。



どこに相談
すればいいの？

ペット同行避難については横浜市獣医師会、横浜市動物愛護センター、お住まいの区民生保護課へ。

命と暮らしを守るために、
ペットを飼っている人も飼っていない人もみんなで考え行動しましょう

公益社団法人 横浜市獣医師会 / 横浜市 / 横浜市災害時動物救援連絡会

人と動物の共通感染症の予防対策の推進

ヒトに感染する病原体は1,407種とされ、そのうちの58%に相当する816種が共通感染症の病原体。

本邦ではそのうち約20－30種の病原体が問題となるといわれている。

【日本に共通感染症が比較的少ない理由】

- ・ 地理的要因（温帯で島国）
- ・ 家畜衛生対策等の徹底
- ・ 衛生観念の強い国民性

※動物由来感染症ハンドブック2018（厚生労働省）

危機感がうすいかもしれない

人と動物の共通感染症の予防対策の推進

ヒトと動物の関係が濃密になったこと、高齢化や医療の発達により易感染者(感受性宿主)が増加。

未知の感染症が明らかになる（新興感染症）
忘れられていた感染症が勢いを取り戻す（再興感染症）



【日本であった共通感染症（一部）】

- ・ 狂犬病・オウム病・エキノコックス症
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症・ねこひっかき病
- ・ カプトサイトファーガ・カニモルサス感染症
- ・ コリネバクテリウム・ウルセランス感染症
- ・ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

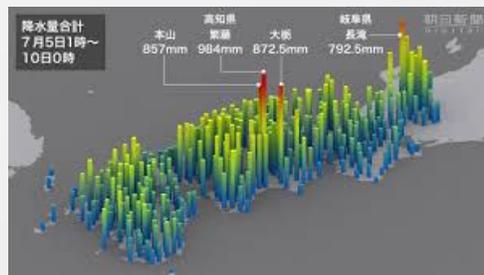
医師会と獣医師会との連携推進の具体的方策

災害時の同行避難の円滑な推進

同じ自治体内でも取り組みや施策が多様化している（温度差）

取り組むべき課題は地域毎（人口、地形など）に大きく異なる
家庭動物対策・産業動物対策etc

医師会、獣医師会、歯科医師会、薬剤師会の連携が重要
特に構成員同士の密な連携は極めて重要！



動物由来感染症のワンヘルス・アプローチについて（結語）

One Healthの概念を深く根付かせるために、
医師会と獣医師会の連携は不可欠

各会の構成員の連携（交流）を密にすることも重要

医師会と獣医師会の連携だけでなく、
歯科医師会や薬剤師会との連携を構築することも重要

**各分野の職能団体として、我が国における人と動物の健康増進、
環境の健全性の維持に関して中心的な役割を果たす必要がある。**